

SDNET-300 先見情報 No.82

『フィンテックによる自動仕訳の先の世界』 ーフィンテック（金融テクノロジー）の広がり会計業務ー

AI（人工知能）により、われわれの経済、社会のあり方は大きく変質しようとしている。

AI の発達により、これまで人間がやってきた仕事がどんどんコンピューターに奪われると言われてきている。チェスや将棋に続いて囲碁までもが AI に敵わなくなり、AI による自動運転や工作機械・ロボットの FA など様々な分野でディープラーニング（深層学習）技術の開発が進んでいるが、ディープラーニングのような高度なことをしなくても、コンピューターに置き換わる仕事はたくさんある。

◆フィンテックによる会計仕訳の自動化

フィンテックの範囲は非常に広く、スマホなどの端末を利用した決済や AI を利用した融資業務・投資業務、仮想通貨のビットコインに使用されたブロックチェーン（分散型台帳技術）、セキュリティからクラウドファンディングなど幅広い分野に及ぶ。

企業会計分野のフィンテックの代表が自動仕訳。これは、金融機関やクレジットカード会社と提携することによって、通帳やクレジットカードの明細をシステムが読み込んで、自動的に会計仕訳を起票するというもの。

この自動仕訳は、その精度についてはまだまだ改良の余地があるが、確実に進歩している。

最も重要なのは、入力省力化や、省略が行われることになる点である。従来の経理業務は、現金での支払いと、その後の証憑資料を元にした入力、というプロセスを前提にして構築されてきた。一方で、いずれ完全にキャッシュレス化が達成され、レシートや領収書情報なども電子的に入手ができる世界では、これらの入力プロセスは不要となる。

更に、その後に行われる、会計上の判断においても、自動化が進んでいくこととなる。一般的な事業では、反復的な仕訳取引が全体の 90%以上を占めている。そのため、過去の情報を参照しながら、自動的な会計判断も行われ、大いに省力化が進んでいくこととなる。そして、社内の経理部門や、会計事務所業務は、機械的な自動判断が適切であったかを確認した後は、経営判断をサポートする立ち位置へと移っていく。

◆電子内閣、電子投票、電子警察、電子駐車場管理



バルト三国の一つにエストニア共和国という国がある。1991 年に旧ソ連から再独立し、人口 130 万人の小国ながら今や ICT 先進国として世界に知られている。世界で最も進んだ国民データベース（DB）による e 行政サービスを実施しているエストニアの「e ガバメント（電子政府）」によるサービス内容である。

電子政府体制は 2000 年から始まり、2002 年に ID カードが配布されることになるのですが、この ID 制度が電子政府の中心を担っている。国民 ID 番号は「デジタルネーム」とも言われている。

このカード 1 枚で身分証明証、健康保険証、運転免許証、公共交通機関のチケットとしての役割を果たすほか、銀行口座へのログイン時の識別、納税、医療記録確認、選挙投票、法人登

記など、IDによる電子署名や電子認証によって、官民合わせて3000もの様々な電子サービスを使用することができるのである。

□電子申告（税理士や会計士の職は消滅）

国民IDのチップを格納したSIMカード入りのスマートフォンからも、eガバメントポータルへのログインや電子文書への署名も可能になっている。スマホさえあれば、住民登録から年金や保険の手続き、納税などが簡単にできてしまうのだ。このためエストニアでは税理士や会計士が不要になり、それらの職業は消滅したのである。

□電子内閣（e-Cabinet）□

2000年に導入された、ネット上で閣議が行なえる世界初のシステム。閣議の議題はネット上にアップされ、事前に合意できるものはネット上で決裁する。また、審議の内容や経過は、すべて国民がネットで直接見ることができるようになっている。したがって、閣僚や各省庁の仕事ぶりは100%国民の監視下にある。国家の運営は完全に“透明”で、日本のような我田引水の利権政治や税金のバラ撒きが入り込む隙はない。

□電子投票（i-Voting）□

国民IDカード（身分証明書）やIDチップを搭載したSIMカード入りスマートフォンによって投票できるシステム。2005年にこれまた世界で初めて地方選挙に導入され、2007年には国会議員選挙にも導入された。2011年の選挙では票の24%が電子投票で、しかも世界105か国から期日前投票・不在者投票があった。

□電子警察（e-Police）□

パトカーに装備されているシステムで、交通違反などで職務質問をする際、警察が独自に管理するDBに加え、国民DBにもアクセスして運転者の情報を照会できる。

□電子教育（e-Education）□

「電子学校（e-School）」と「電子学習（e-Learning）」の二つがある。電子学校は、生徒の成績、宿題、出欠を集積するDBで、学校、生徒、保護者が閲覧できる。電子学習は、教師が自分でカスタマイズした教材を提供するシステム。

□電子駐車場管理（m-Parking）□

駐車スペース不足が予想される場合、適宜、料金を変更して自動車の一極集中を防ぐシステム。空いている駐車場の検索や料金の支払いがスマホでできる。

-
- ・人工知能がいずれ代替する領域として、会計業務が取り上げられる。だが、それは、入力プロセスや、反復的な処理の省力化である。間接業務はどんどん合理化される。単にコンピュータができることをしては、仕事はなくなる。
 - ・人工知能（AI）はクリエイティブな作業には向いていない。となれば、人は機械にできる仕事は機械に任せて、より高次元でクリエイティブなことに集中することである。人がそうして新しいスキルや知性を磨くようになれば、新しい時代を切り開いていける。
 - ・経営者は、その結果出た数字を経営にどう活用していくことが大切になる。結果をどう見るのか、どう未来に生かすのか、数字だけでなくその背景をどう見て改善していけるのかが問われていく
 - ・合理化されていく社会だからこそ、動態連続生命観に立った生き方、社会にしていかなければならない。
-